

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

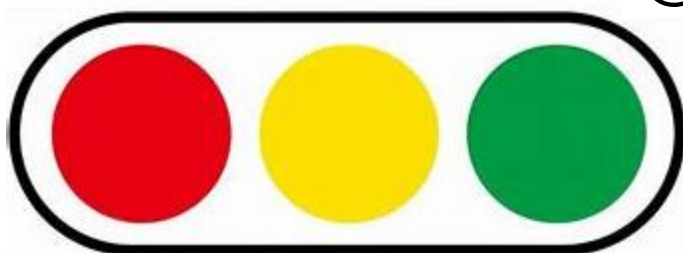
令和 4年 5月 13日(金)

その3 通算 225号

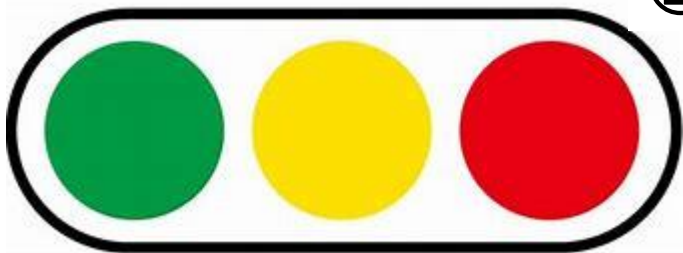
◇ 信号機の話

問題：信号機ランプの配列

①と② 正しいのはどちら？ ①



②



☞左の問い。

理由を付してすぐに答えられれば、相当にすごい。交通安全マニア級だ。

正解は②。

ある調査の正解率は 55%とのこと。

調べてみると、ランプ順を②にした明確な理由があることが分かった。

図で示す3連の信号機は、車両を運転する運転者を第一対象としている。

②の場合、「止まれ」の命令信号で

ある【赤】は、運転手が確認しやすい道路の中央側となる。【赤】が中央側（運転手側）というのが重要で、街路樹の枝が伸びるなど、見る角度によって【青】が見えにくくなったとしても【赤】は確認できるわけだ。

つまり②は、「車道左側通行」&「右ハンドル車が多い」日本にぴったりの効果的な安全方策なのだ。納得である。

発行体が電球から LED に変わったことも安全性の向上に大きく関わっている。より鮮明で、逆光にも強い。しかも低消費電力。全国にある信号機の設置数はかなりのもの。さらに 24 時間稼働だ。「地球にやさしい」大転換だと言える。

ところで、自身の毎朝の出勤では、自宅を出て十数秒で信号機に遭遇。数十メートル先には二つ目の信号機が見える。こんな具合に信号機が連なるのが常だ。

ところが、滝町の「滝団地北」交差点（ローソンの交差点）の信号を越えると、学校までの約 4km の間、米河内で信号機を目にすることはない。安戸も、新居も、小丸も大柳も、蔵次も…「本校の学区内には信号がない」ことに改めて気づく。

信号機は児童にとって、身近な存在・生活に密着した存在ではないのである。そしてこの環境は、中学生になっても変わることはない。

自動車は、信号機がない場合、スピードが増す傾向が強い。たださえ危険な現通学路。建設中の「TOYOTA下山テストコース」が完成すれば、通行量はさらに増し、急加速度で児童の危険度は増していく。



【滝団地北】交差点の信号機

※東に折れると、以降、信号機はない。



①大沼街道バイパス（県道 477 号）と大沼街道（県道 335 号）の合流点や②「こどもの家」前の横断歩道は、「押しボタン式信号機」でもよいので設置することで、交通事故防止と通学路の安全性向上が期待できる。

さらに、体験を通した子供たちの信号機への認識も高まるのではないかとと思われるのだが、どうだろう。

さて、ここから本題。「信号機の話」とは、朝会(集会)の児童向けの講話のこと。学区内に信号機が無いことから信号機への認識も薄かろうと思い、話の中で「信号機のランプの色」について、児童らに問うた。

「【赤色】はどんな意味？」→『【止まれ】だと思います』…大正解だ。つづいて

「【黄色】はどんな意味？」……【注意】…と、児童の反応を勝手に予想する。ところが、指名した4年生の将希さんの発言は違った。

「【黄色】はどんな意味？」→『【黄色】は、【赤色】と同じ【止まれ】だと思います』

そのとおり。将希さん、模範解答の大正解。他は、ちょっとどよめいた様子。少々解説を加えつつ、黄色ランプ点灯時の危険度を話す。

続いて「【青色】はどんな意味？」…手が拳がらない。自信が揺らいだか…。正解は『進め』ではない。『青色は、進んでもよい』である。安全確認は必須だ。

【おまけ】

しかし、将希さんの回答には驚いた。どうして知っていたのかを聞いてみると、『教えてもらったとか、調べたとかじゃなく、もともと知っていた』との返答。

これは、本当に幼い頃に教えを受けたことが、忘れない確かな力として残っているということだろう。家族からの教えであり、両親から授かった良識なのだ。